

TOPICS 平成21年度附属学校研究発表会日程表

附属学校教育局と各附属学校合同での研究発表会を下記の日程で開催する予定です。ぜひご参加ください。
※各附属学校が会場となります。(附属学校教育局を除く)

区分	研究協議会等開催予定日
附属小学校	平成21年 6月18日(木)・19日(金) (研究発表会) 平成22年 2月18日(木)・19日(金) (初等教育研修会)
附属中学校	平成21年11月14日(土) (研究協議会)
附属高等学校	平成21年12月 5日(土) (教育研究大会)
附属駒場中・高等学校	平成21年11月21日(土) (教育研究会)
附属坂戸高等学校	平成22年 2月25日(木)・26日(金) (総合学科研究大会)
附属視覚特別支援学校	平成22年 2月20日(土) (研究協議会)
附属聴覚特別支援学校	平成21年 6月18日(木)・19日(金) 関東地区聾教育研究会「聾教育実践研修会」 平成21年11月25日(水)～27日(金) 聴覚障害教育担当教員講習会 (文部科学省、筑波大学共催) 平成22年 2月 聴覚障害早期教育公開研修会 (特別支援教育研究センター後援) 平成22年 3月 筑波大学連携研究報告会 (学系と附属聴覚特別支援学校)
附属大塚特別支援学校	平成22年 2月19日(金) (研究協議会)
附属桐が丘特別支援学校	平成21年 8月 3日(月)～5日(水) (自立活動実践セミナー) 平成22年 2月 4日(木)・5日(金) (研究協議会)
附属久里浜特別支援学校	平成22年 2月11日(木)・12日(金) (実践研究協議会)
附属学校研究発表会開催日	平成22年 2月27日(土) (G501又は附属小学校講堂)

目次	平成21年度附属学校研究発表会日程表
■ TOPICS	平成21年度附属学校研究発表会日程表
■ ご挨拶	教育長挨拶 ● 阿部生雄 1 教育長にインタビュー 1/2
■ 研究発表会・研修会	平成20年度筑波大学附属学校研究発表会報告 ● 石川満佐育 2 平成20年度春期研修会報告 ● 篠原吉徳 3 平成20年度新任教員交流会報告 ● 江口勇治 3
■ 研究紹介	附属学校教育局プロジェクト研究「交流・共同学習」の紹介 ● 菅野和恵 4
■ 附属の今	附属の今 (附属駒場中・高等学校) ● 濱本悟志 4
■ 温故知新	子どもに学ぶ (児童中心) ● 浜津平 5
■ 新入教員奮闘中	「桐が丘で新しい人生のスタートを切って」 ● 中泉 康 5
■ 「科学の芽」賞	今年も実施します! 朝永振一郎記念第4回「科学の芽」賞 ● 小林 汎 6
	<p>● 広報誌名「ポローニア」の由来</p> <p>「ポローニア」とは、「桐」の属名であり、Paulowniaと綴る。本誌を「ポローニア」と名づけたのも、筑波大学の紋章に「五三の桐」が使われていることに拠る。しかし、ポローニアを付与した理由が他にも存在する。近代西洋医学を日本に伝えたシーボルトは、日本において、桐が瑞祥の象徴と見なされ、皇室をはじめ高貴な家柄の紋所として用いられていることを知り、Paulownia (後援者のオランダのパウロウナ公妃に因む)こそが植物の桐のイメージを表現していると考え、桐の学名 (Paulownia imperialis) に定め、パウロウナ公妃に献呈した。今後いつまでも、多数の読者に愛され続けることを願い、ポローニアの故事来歴やエピソードに基づき、ポローニアと命名した。</p>



「筑波大学スタンダード」の持つべき

私が附属中学校の校長を務めていた頃、谷川彰英前教育長にお願いして、アメリカ合衆国へ教育視察に行ったことがある。団長は篠原吉徳教授であった。10名の附属学校の教員、3名の附属学校教育局の指導教員の編成で、シカゴ大学附属実験校におけるエリート教育、ヴァンダービルト大学における全米第一と評される特殊教育の試み、コロンビア大学の大学院における教員養成、を見て回った。この視察旅行は、各附属校の先生方の相互理解を深めただけでなく、自分の専門分野を越えた教育の総合的な理解 (エリート教育、特別支援教育、そして教員養成等) を深める上で重要な意味を持っていたように思われる。

シカゴ大学附属実験学校の基礎は、アメリカの進歩主義の教育者であるジョン・デューイによって作られた。現在では、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の教育が一つの建物の中で行われている。その一貫教育には次のような七つの共通目標が掲げられていた。(1) 批判的、創造的に考えることを学ぶ、(2) 勉強、芸術、運動競技における卓越への情熱を育む、(3) 重要教科を身につける、(4) 情緒的・身体的健康を身につける、(5) 文化的差異と共通のヒューマニティーを尊重する、(6) 個人的・社会的責任感を身につける、(7) 終世の学問愛を発達させる、というものであった。そして最後に「この使命を追求し、またジョン・デューイの遺産を継承する中で、実験校は最善の教育実践の模範を示すよう努める」と書かれていた。

こうしたシカゴ大学実験校の試みには、「筑波大学附属」が学ぶべき重要な点があるように思われる。普通附属も特別支援学校も、共にある種の哲学に裏打ちされた一貫したプログラムを持たなければならない、ということであろう。そうした「哲学」を、普通附属学校や特別支援学校の活発な交流の中で築き上げることが重要なことだと思うのである。それこそが、われわれ附属学校関係者が発信すべき「筑波大学スタンダード」の核をなすものだと思うのである。

2009年 5月
筑波大学附属学校教育局 教育長 阿部生雄

The Interview

附属学校教育局教育長阿部生雄先生にインタビューを行いました。
インタビュアーとして久保野りえ教諭 (附属中学校)、
根本文雄教諭 (附属大塚特別支援学校) にお話を伺いました。



● 附属学校教育局教育長になられた率直な感想は?

正直最初は困ったという感じでした。もともとねらいを持って教育長になったわけではないです。僕は5年間附属中で校長をやってきたのでどちらかというと教育者なんです。教育者ではなく、校長先生方を束ねる管理者が僕に務まるのかという不安が強かったですね。その一方で、僕は小・中・高とずっと筑波大学の附属育ちだったので、附属に育てられたという事もありますし、恩返しをしなきゃいけないという思いもありました。ですので、少し複雑でした。

● 附属中学校の校長時に思い出に残っているエピソードなどをお聞かせください。

いろいろな学校行事に参加できたことが印象に残っています。特に富浦の遠泳ですね。僕が行った時と変わらず、先輩が後輩に伝統的な泳法を指導していくということは、世界的に珍しいことだと思います。僕が1年生の時に参加して先輩に叱られたり、大事な礼(命札)をなくしたことがあったのでその思い出も重なり懐かしく思いました(笑)。あとは、毎週月曜の集会で、全校生徒を前にしてスピーチをしたことです。そのスピーチを毎回書面にして残していました。それをまとめたものがこの本 (写真右) です。話が面白く



なければ生徒は反応してくれないです(笑)、話す話題、季節、出来事いろいろ考えて選びました。だいぶ訓練されました。まさに学校に、子どもたちに育てられていると感じました。他には、優秀な先生方に出会えたこともよい思い出です。

● 筑波大学の中での附属学校が果たす役割についてはどのようにお考えですか?

附属小は明治6年創設という古い歴史を持っています (他10校の各附属学校の創設年時を述べる)。普通附属学校にしても特別支援学校にしても時代に先駆けて、最先端を担ってきたという歴史的背景があります。それが全てだと思うんです。日本の教育に対して、常にあるモデルを発信しているという自覚をもってやっていく必要があると思います。

● 筑波大学附属学校においては、普通附属学校・特別支援学校との連携、各センターと各附属学校との連携、統合キャンパス構想など「連携」が大きなキーワードとなっています。附属学校における「連携」という点について、お考えをお聞かせください。

今、各附属学校を回っています。まだ途中なんですけど、附属視覚特別支援学校、附属聴覚特別支援学校、附属桐が丘